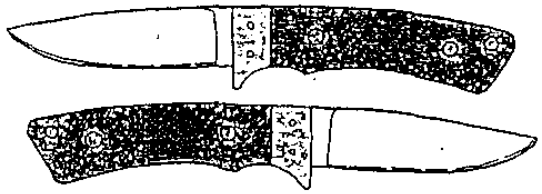
スカウト 70524 9月号より

野外生活の知識 ㊿

山田邦夫
（野外活動研究家）



刃物の研ぎについて考える

キャンプで使う刃物は，ポケットナイフに始まり，シースナイフ，フォールディングナイフ，なた，オノ，フルサイズのアックスまで色々です。

ボーイ隊では，ポケットナイフからナタくらいまで，シニアー，ローバーになると，シースナイフ，フォールディングナイフなどで，高度な工作物を作ったりします。

いずれにしてもナイフそのものは全く危険なものではないのですが，正しい扱い方をしないと事故に結びつきます。

野外生活で，ナイフほどシンプルでまた，必要不可欠な物はないでしょう。この野外生活用具の原点ともいえるナイフを使いこなせないようでは，一人前のキャンパーとはいえません。

刃の形

刃物の刃は，使用目的によっていろいろな形になっています。その，用途によって形を選びます。ほとんどのスポーツナイフや包丁は刃がややそった形になっています。この反りは，ものを切るときに必要なものなのです。

刃物の手入れ

きみたちの家に砥石はありますか？

家庭用のステンレスの包丁でも手入れさえよければ20年～30年はちゃんともちます。また，刃物というものは使えば使うほど手に馴染み，身体の一部のようになってゆくものなのです。

ナイフの研ぎ方

資料を集めてみると，これで本当にナイフが研げるのかと思うような説明を見受け，びっくりすることがあります。

もともと，研ぎというのは難しく，専門家がいろくらいのものですが，ある程度基本を知ってさえいれば，自分流の研ぎ方を身に付けることができます。

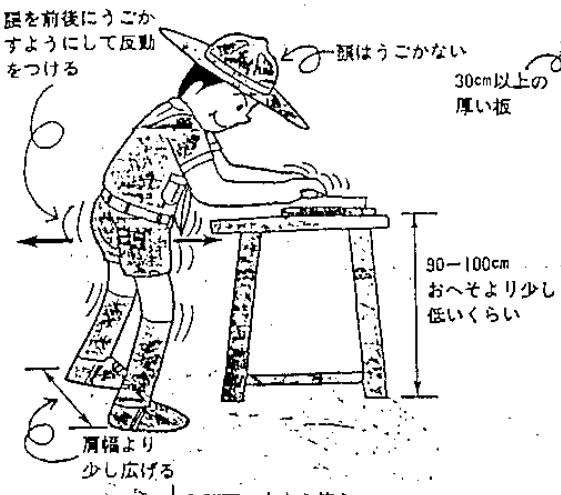
◎砥石

包丁を研ぐのなら，雑貨店で売っている中砥を用意します。ナイフならスポーツ店でシャープニングストーンキットを買ってきます。砥石は使う3時間前くらいから水につけておきます。ナイフ用の砥石は，研ぐときにホーニングオイルをたらして使います。

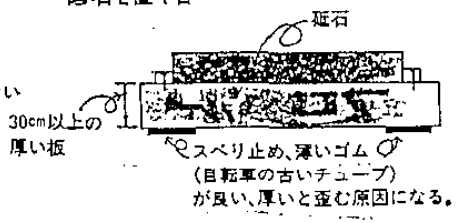
◎研ぎ方

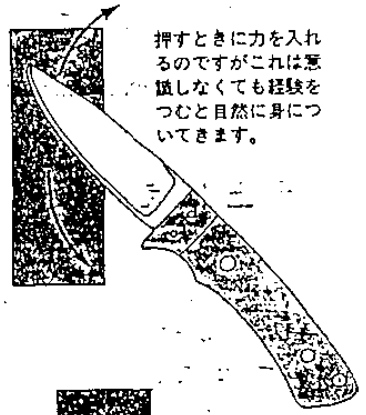
包丁でもナイフでも，基本的な研ぎ方は同じです。また，両方とも砥石を置く台がキーポイントになります。完全に固定して手の動きが正しく伝わるようにしなければなりません。

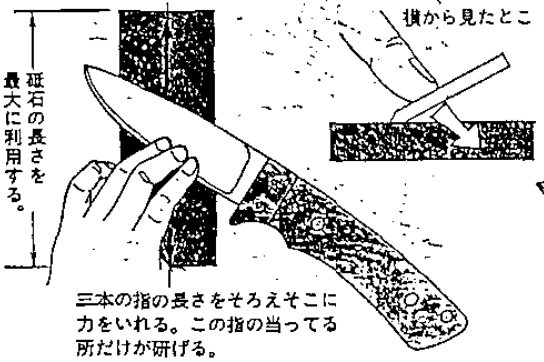
研ぐ姿勢

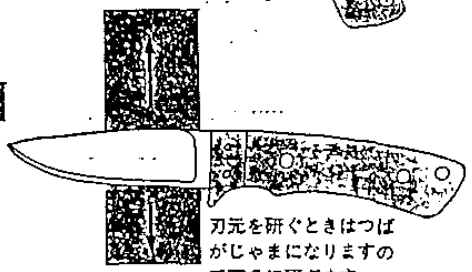


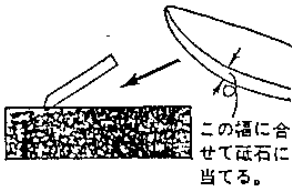
砥石を置く台











ナイフのしまい方

何かを切ったらケースに入れる前に必ずぬれたティッシュペーパーか布でふきます。長い間には木の樹液から，ゴミなどがこびり付いたりします。キャンプから帰ったらクレンザーをかけ水で浸した金タワシ（ボンスター）等できれいにこすり落します。完全に水気をふきとってからケースに入れそのケースごと新聞紙で包みしまっておきましょう。新聞紙は外部から入る湿気を防いでくれます。